

第3回かわさきコンパクト委員会 議事録

日 時：2013年10月9日（水）午前10時00分～12時00分

場 所：川崎市役所第四庁舎第3会議室

出席者：〔委員〕岩森、庄司、末吉、瀧田

〔川崎市〕地球環境推進室

〔事務局〕一般社団法人CAT

1 開会

2 議題

(1) かわさきコンパクト上期事業について（資料1）

上期事業の実施報告に関して、以下意見交換を行った。

<参加の呼びかけに関して>

- 企業に対して、PRはどうか。
（川崎市）川崎フロンターレをはじめ、検討している。
- 他の企業についてはどうか。
（委員）関連団体に都度PRしている。12月のセミナーをきっかけに声をかけたい。
（委員）まずは参加している企業にもっとKCに積極的になってもらいたい。
- 市民団体に対してはチラシで誘いかけたい。
- （事務局）市内事業所の業種のうち、サービス業が6～7割を占める。サービス業を生業としている事業所に対し、どういう接点をつくれるのか。これから広げるためにはサービス業の事業所に響くのは何かを翻訳しながら伝える作業が必要と考えている。
（委員）ショッピングセンターやオフィス、商店街といった単位でまるとコンパクトに参加している状況になると面白い。

<今後の展開>

- 10/27に市長選があり、日本全体で消費税など変化があるなか、かわさきコンパクトをどう市内で活性化するかを考えなければならない。川崎市の企業がコンパクトに参加すると制度として得する形にならないか。
- コンパクトに入ってもらった後どう活かせるのか、川崎市の姿勢がその点について見えると張り合いがでるのではないか。
- 次期東京オリンピックをはじめ、かわさきコンパクトが進めてきた環境によいことをさらに進めていこう、という世の中の流れが加速し、追い風ではある。
- 消費税増税など全国経済が低調になりそうなところに、川崎市としてどう働きかけるか。会社全体でやってもらいたい、という話ではなく、地元の川崎市が施策としてこ

ういうことをしたい、市内事業所の単位で市と一緒にやってもらいたい、という働きかけをすれば受け止められるのではないか。地元との特殊な協力体制を検討してはどうか。

- 各企業に関心の高い CSR の広め方として、コンパクトの場を活用してもらおう。

<川崎市・自治体としての取り組みとの連携>

- (川崎市) 市としてもっている表彰制度、低 CO₂川崎ブランド・スマートライフスタイル大賞、といった多様な場に参加する団体のうち全団体が知っているわけではないので、知ってもらう努力を進める。
- 中小企業向けの「ものづくりブランド」や大手も対象とした「低 CO₂川崎ブランド」などで、例えば「低 CO₂川崎ブランド」の認定を受けたらコンパクトに入るとか、より大きなしつらえのなかで推進できれば浸透する。他の各事業と同列になってしまっている現状ではなく、もっと大きな仕組みの中でかわさきコンパクトが存在しているので、うまく位置づけできないか。

(川崎市) 縦割りになってしまっているものをコンパクトとして束ねることができないか検討している。

(委員) かわさきコンパクトに入っていると調達で加点されるというのはできないか。

(委員) グリーン調達での有利性などあるといいと思う。

- 企業がコミュニティとどう関わっていくかという大きなテーマに対し、コミュニケーションの場をつくっていく、そのモデルを川崎で作っていくと企業は喜ぶのではないか。川崎市でこういう取り組みができれば、北海道でもこういうことができるのではないか、ということになる。大企業・中小との組み合わせで出て行って、市民との交流の場に出て行くといったことも、あながち一方的ではない。モデルとしてこれを考えている、ということになれば。積極的に企業ニーズを読み取って。地場との関わりをどうしていくか。

また、5 月実施の交流会について、報告書当該箇所に日時の誤記があったため、事務局にて訂正することとなった。

(2) 第 2 回交流会の開催準備について (資料 2)

交流会の開催準備・広報活動に関して、以下意見交換を行った。

- 環境局だけでなく、関連する他の部署へも参加を促してはどうか。
- 市内に大学がたくさんあるが、環境学部といったところ、学部がなくてもサークルでやっているところなどへ呼びかけてはどうか。

(事務局) 前提として、会員間での交流を主としている。

- 会員間の交流も大切だが、参加者がより多いほうが発表する側、参加者共に活気がで

るのではないか。

(事務局) こども文化センターへ委員から声掛けをしてもらうのも考えたい。

- エネルギー・環境子どもワークショップ関連団体に声をかけてもらいたい。
- 川崎市環境総合研究所への声掛けを。UNEP との取り組みが主だが、東京都市大学との協力もあるので、意見交換の中で話してもらってはどうか。
- 認定 NPO 法人キーパーソン 21 に声をかけたい。
- (事務局) 地域環境リーダーに声をかけるのは適切か。
(川崎市) OB が推進員となり 80 人くらいいるので、対象と考えられる。

以上の意見交換で、会員交流会に向けてまずは人数を集めたいという方針が定まり、よりオープンな形で広報を進めることを確認した。

また、意見交換の中では「企業からの報告を専門家等に川崎市の温暖化の観点からはどういう意味なのか等説明をつけてもらう」といったアイデアや、IPCC 報告書で断定的表現が使われているので是非共有したいといった今後に向けての提案がなされた。

(3) 第 2 回セミナーの開催準備について (資料 3)

第 2 回かわさきコンパクトセミナーの開催準備・広報活動に関して、以下意見交換を行った。

- 講師の桜井氏は、市内の中小企業を訪問している数では指折りなので、是非お勧めしたい。
- 桜井氏は、特にソフト面の業種では、起業家のネットワークを持っているため、ぜひ縁を深めたい。
- チラシの配架が 2 箇所となっているが、市内全部で配布してはどうか。
(川崎市) そのようにしたい。
- 委員会の場に桜井氏を今後招くなど、検討していただきたい。

上記内容に基づいてセミナー準備を進めることを確認した。

(4) かわさきボランティア・市民活動フェア出展について (資料 4)

同フェアの開催日時・概要について事務局から報告と出展提案がなされ、承認された。

(5) その他

かわさきコンパクト・フォーラムの開催日時について、以下決定した。

2014年3月20日 午後2時00分～。

併せて、次回委員会を同3月20日、午前12時00分より開催することとした。

なお、講演を末吉参与にお願いすることとし、テーマは年明けより検討することを確認した。

3 事務連絡

瀧田委員より「臨海コンビナート都市連携シンポジウム（10月31日開催）」の紹介・案内があった。

また、川崎市より「地球環境基金創設20周年記念講演会・シンポジウム（11月29日開催）」の紹介・案内があった。

4 閉会